

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和元年6月号



【有田振興局】6/18 有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催！

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1 - 3
1. 小学校を対象に田植え体験学習を実施	
2. 和歌浦小学校で「うめの出前授業」を実施	
3. クビアカツヤカミキリの発生調査を実施	
4. 女性農業者交流会（第1回目）を実施	
II 那賀振興局	4 - 5
1. 岩出市特産「ねごろ大唐」の出前授業を開催	
2. 桃新品種「さくひめ」試食検討会	
III 伊都振興局	6 - 7
1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】 ～柿の米国および豪州向け輸出登録生産園地の巡回調査～	
2. 農業技術講習会（花コース第1回）の開催	
3. 観光客向け桃狩りがこれから最盛期を迎える	
IV 有田振興局	8 - 10
1. 有田農業技術者会総会・研修会を開催！	
2. 有田地方リーダー研修会～地域の特産品を使って～を開催！	
3. 田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催！	
4. 有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催！	
V 日高振興局	11 - 13
1. 重点プロジェクト 【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い産地づくり】 ～「日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議」を設置～	
2. 重点プロジェクト 【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い産地づくり】 ～「露茜」の導入推進・生産安定技術の実証～	
3. 印南町農業士らによる小学生の稲作体験を実施	
4. 川辺西小学校で梅の出前授業を実施	

Ⅵ 西牟婁振興局

14-16

1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】
～ウメ摘心栽培実証園の収量調査結果～
2. 白浜町農業振興協議会が地元農産物をPR
3. 四村川活性化委員会が野菜栽培講習会を開催

Ⅶ 東牟婁振興局

17-20

1. 重点プロジェクト【新規就農者育成を核としたイチゴの産地育成】
～那智勝浦町苺生産組合が研修会（イチゴセミナー）を開催～
2. 三津ノ地域活性化協議会が福祉施設利用者によるタマネギ収穫作業を実施
3. 那智勝浦町果樹園芸会が定例総会及び講習会を開催
4. 三津ノ地域活性化協議会がサツマイモ定植体験を開催
5. 新宮周辺地場産青果物対策協議会が総会及び現地研修会を開催

Ⅷ 農林大学校 農学部

21-22

1. 就農・就職へ向けて ～2年生インターンシップ（前期）を実施～
2. アグリビジネス学科プロジェクト学習 観光農園現地調査

Ⅸ 農林大学校 就農支援センター

23-24

1. 社会人課程の実習にて梅の加工を実施
2. UIターン就農相談フェアを開催

I 海草振興局

1. 小学生を対象に田植え体験学習を実施

農業水産振興課では、小学生等を対象に農業や食べ物への関心、大切さを感じてもらうため、体験学習等の指導に取り組んでいる。

6月11日、和歌山市梅原の貴志正幸氏の水田において、和歌山大学教育学部附属小学校5年生91名を対象に田植え体験を実施した。

田植え体験では、まず園主の貴志氏から田植えの方法やお米の品種について説明を受けたあと、実際に水田に入り田植えを体験した。ほとんどの子供達は田植え経験が無く、水田に入るのをためらう子供が多かったが、徐々に馴れ、ほとんどの子供が田植えを楽しんでいた。

貴志氏はアイガモ農法を実践しており、今後、7月にはアイガモと農機具の見学を、10月に収穫体験を計画しており、収穫したお米については家庭科学習の時間に試食する予定である。



貴志氏から説明



田植え体験

2. 和歌浦小学校で「うめの出前授業」を実施

6月13日、和歌山市立和歌浦小学校4年生の児童32名を対象に、紀美野町の古田好美氏（指導農業士）と農業水産振興課の嶋田普及指導員、佐々木技師が出向き、ウメの生産状況や栽培のポイントなどを説明する出前授業を行った。県では地産地消の取り組みとして、県内小学校・特別支援学校の給食や家庭科等の教材として使用する主要農産物の提供を行っている。今回は、今年度第1回目の授業であった。

児童たちは、南高梅の名前の由来やウメの持つ栄養パワーについて興味深く耳を傾けていた。また、古田氏が鳥獣被害の話をしたところ、「カモシカは見たことがない!」、「サルは出るの?」など話が盛り上がった。



ウメ栽培のポイントを説明する古田氏

最後にウメジュースの作り方の説明をしたところ、砂糖と梅だけでウメシロップができる様子に驚いていた。

今後も、当課では関係機関と協力しながら、地域農業を軸とした食育を推進していく。

3. クビアカツヤカミキリの発生調査を実施

クビアカツヤカミキリは、体長3～4cm、前胸が明赤色（写真）で、サクラ、ウメ、モモなどを加害する。大阪府では被害が確認されており、今後、和歌山県にも被害が及ぶ恐れがある。

6月19日、かき・もも研究所、JAながみね、農業水産振興課の担当者が集まり、海南市高津のモモ産地周辺で、サクラの木が複数植栽されている6箇所を選定してクビアカツヤカミキリの発生調査を実施した。調査では、全91株について、各樹の主幹根元から4mまでの高さを観察し、成虫やフラスがないことを確認した。

8月に再度調査する予定にしている。

（クビアカツヤカミキリの詳細は、県ホームページを参照）

（https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/index_d/fil/h30kubiakakeihatsu.pdf）



発生調査



クビアカツヤカミキリのメス成虫

4. 女性農業者交流会（第1回目）を実施

6月27日、「サンショウ栽培研修×サンショウ料理講習」と題して、女性農業者を対象に交流会を行った。この取り組みは昨年度から実施しており、同年代の女性農業者同士を繋ぎ、農業現場での知識習得を目指すことを目的で行っている。今回は、地域の特色ある農業に焦点を当てるためサンショウを取り上げた。

まず、紀美野町の指導農業者である西くみ子氏のサンショウ圃場において栽培現地研修を行った。女性農業者を含む12名が参加した。和歌山市から参加した就農4年目の参加者は「古くなったミカン園での改植候補の一つとしてサンショウも考えている」と話し、それに対し西氏は「和歌山市は作っているところが少ないため、まわりに相談してから始めたほう

がいい」とアドバイスしていた。また「サンショウの花は何色か」、「どれくらいの樹齢で一番多くとれるのか」など質疑応答が活発に行われた。

次に、紀美野町総合福祉センターの調理室に移動し、紀美野町生石加工グループ（寺中萬喜子会長）の寺中佐知子氏および上村尚子氏の指導のもと、サンショウ餅づくりを行った。参加者からは「家で子供と作りたくなった」、「発展途中のサンショウの可能性が今後日本食文化に貢献する部分が大いにあると思った」といった感想が出された。

今回は9月中を予定しており、農業水産振興課では今後も女性農業者の活動支援に力を入れていく。女性農業者交流会や新規就農者研修会の情報は海草振興局農林水産振興部のホームページで随時公開している。

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130100/nourin.html>)



サンショウ栽培の基本を話す西氏



参加者に作り方のポイントを教える
寺中氏と上村氏

Ⅱ 那賀振興局

1. 岩出市特産「ねごろ大唐」の出前授業を開催

農業水産振興課では、6月13日、岩出市立中央小学校5年生72人を対象に岩出市特産のねごろ大唐についての出前授業を開催した。

この授業は、子供たちが地域農業に対する理解を深めることを目的とし、栄養教諭と連携して総合的な学習の時間を利用して行っている。

講師を務めた JA 紀の里ねごろ大唐部会の中村和史会長から、ねごろ大唐は高温下で栽培すると辛みが出るため温度管理が大切であること、虫よけにマリーゴールドを植えていること、また名前が「根来寺の大塔」に由来し「値ごろな大唐」とも掛けられているといった話があり、児童たちは興味深く聞き入っていた。

中村講師が実際に子供たちの前で接ぎ木をやって見せると、「苗を切ってしまうても大丈夫なの?」、「接ぎ木するのがすごく早い」と児童たちは一様に驚いた様子だった。

その後、生のねごろ大唐の試食では「苦くない」、「甘い」といった感想が聞かれ、『ねごろ大唐じゃこ昆布炒め』も「すごく美味しい」、「家でも作ってもらおう」と大好評だった。この日の給食は『ねごろ大唐入りピリ辛肉味噌丼』が用意され、児童たちは中村講師とともに味わった。

今回の出前授業を通じ、子供たちが地域農業への理解を深めるとともに、食べ物を育てている人の努力や苦勞を知ることで、食べ物を大切にしようとする感謝の気持ちが醸成されることを期待している。



中村講師による説明



「ねごろ大唐じゃこ昆布炒め」を試食

2. 桃新品種「さくひめ」試食検討会

6月26日、かき・もも研究所において和歌山県桃研究協議会（構成組織：モモ生産者、県農、JA、市町、県）主催による「さくひめ」の試食検討会が開催された。

かき・もも研究所堀田主査研究員から「さくひめ」の特徴について説明があり、既存の早生品種などと比較して、開花は早まるが、開花後に極低温に遭遇すると落花する可能性があることや、今年の果実品質は非常に仕上がりが良く、品種の特性が十分に反映されているとの

話があった。

試食については桃部会の役員など参加者から概ね好評であったことから、生産振興を図っていく品種として有望ではないかと考えられる。



試食検討会



試食果実

(左 対照品種「日川白鳳」 右「さくひめ」)

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】

～柿の米国および豪州向け輸出登録生産園地の巡回調査～

農業水産振興課では柿の米国及び豪州への輸出が円滑に行えるよう、本年度から植物防疫所から検査補助員として委嘱を受け、農業環境・鳥獣害対策室、JA 紀北かわかみと共に、登録生産園地を巡回し、病虫害の発生状況等の調査を実施することとなった。

6月11日、第1回目の巡回調査を実施したところ、今回の調査では、病虫害の発生はみられなかった。

今後、米国向けの10園地は月1回、豪州向けの5園地は月2回、巡回調査を実施する。



生産登録園地の巡回調査

2. 農業技術講習会（花コース第1回）の開催

6月18日、伊都振興局会議室において、農業技術講習会花コースを開催し7名が受講した。

はじめに、花栽培の基礎、ストック・ハボタンの栽培管理等について、農業水産振興課の五十嵐技師が講義をおこなった。

講義の後、農林大学校へ移動し、定植準備中のカーネーション施設やバラ温室、クーラー育苗施設、千両、ヒマワリ、ベニバナ、コギクの露地栽培等を神谷准教授の案内で見学した。

受講者からは、「ケイトウ、ヒマワリ、アスターなどの栽培についても教えて欲しい」、「農林大学校で色々な種類の花がみられて良かった」などの意見や感想があった。

今後も、講義だけでなく、実際の栽培圃場見学も積極的に取り入れるなど、講習内容を充実させていく。



講義



農林大学校の施設見学

3. 観光客向け桃狩りがこれから最盛期を迎える

6月20日から、かつらぎ町の河南地区農産物加工販売組合（通称：果夢果夢バザール 倉谷孝子組合長 会員25名）で16年目となる桃狩り観光の受け入れが始まった。

リピーターも多い人気のバス企画となっており、白鳳の出回る7月上旬から最盛期を迎え、7月末までに近畿各地から観光バス150台程度の来客を予定している。

来客者はバス内で収穫適期の桃の見分け方と収穫方法の説明を受けた後、組合員の桃畑で桃2個を収穫し、土産用に用意した2個と合わせて4個の桃を持ち帰る。

桃狩りのあとは、施設内で桃の試食を楽しみ、特設の販売所で農産物や加工品（各種ジャム、金山寺みそ等）を購入していた。

観光バスによる団体の受入が中心となっているが、個人での参加も対応可能な範囲で受入をおこなっている（桃狩り料金：1300円/人）。

今後も、農業水産振興課では同組合の運営や桃生産への支援を行っていく。



桃狩りを楽しむ観光客



桃の試食を楽しむ観光客

IV 有田振興局

1. 有田農業技術者会総会・研修会を開催！

6月6日、県果樹試験場で有田農業技術者会の令和元年度総会・研修会を開催し、会員35名が出席した。同会は農業水産振興課普及グループ、果樹試験場、JAありだ、農業共済、土地改良区、農業関係教育機関等から構成される団体（会員67名）であり、当課が事務局を務める。

総会では、平成30年度の事業報告・会計報告及び令和元年度の事業計画・予算案、新役員案が全て承認され、会長にはありだ農業協同組合の赤松氏が、副会長に当課の奥野普及指導員が選任された。

研修会では、果樹試験場 中地栽培部長から今年の温州みかんの生育状況や開花後の水管理の重要性について、中環境部長からは、今年度、発生が多くみられているクワゴマダラヒトリの対策等について講義を受けた。

同会では、今年度もかん水情報の提供やチャノキイロアザミウマ等の発生予察調査、研修会等を実施していく。



総会



研修会

2. 有田地方リーダー研修会～地域の特産品を使って～を開催！

6月12日、湯浅町田区民センターにおいて、有田地方生活研究グループ連絡協議会（榎原光代会長）の会員及び関係者32名が参加し、地元農産物の利用拡大、加工技術の向上および栄養バランスのとれた食について学ぶことを目的に、有田地方リーダー研修会が開催された。

今回は、湯浅町の特産品「しらす」を使ったかき揚げのほか、6品の家庭料理について、会員と農業水産振興課職員が講師を務め、グループに分かれて調理を行った。

試食会では、料理に舌鼓を打ちながら、各地域産品やグループ活動について熱心に情報交換をおこなっていた。

当課では、地元農産物の利用拡大にむけたグループ活動を、今後も支援していく。



調理実習



試食をしながらの意見交換

3. 田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催！

有田市立糸我小学校では、糸我地区青少年育成会主催による「田んぼの学校」として、アイガモ農法での米づくりに取り組んでいる。

6月14日、全校児童による田植えが行われた。28名の地元農家が支援し、「田んぼの学校」校長である山崎佳彦氏（元指導農業士）が田植えの方法について説明した後、児童が一列に並び、慣れない田んぼに足をとられながらも1株ずつ丁寧に植えていった。終了後、児童からは「もっとやりたい」、「稲刈りが楽しみ」などの声が聞かれた。

また、同月18日に児童が孵化させたアイガモ15羽と大阪の業者より購入したアヒルのヒナ20羽の計35羽を田んぼに放った。今後も、農業水産振興課では地域の農業者と共に、食育活動の支援を行っていく。



田植えの説明をする山崎氏



田植え



放鳥前のヒナ



放鳥する児童ら

4. 有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会を開催！

有田管内の女性および就農して間もない農業者が、農業に関する知識や技術の向上と交流を図ることを目的とした「有田農業女子プロジェクト・アグリビギナー合同研修会」を、6月18日に果樹試験場で開催した。

研修会では、「農業におけるドローン技術の利用」をテーマに、果樹試験場環境部 熊本主査研究員から「ドローンを活用した病害虫の防除や試験場での試験結果や状況について」、また、ドローン操縦技能者の養成スクールを開講し、県内各地で研修を行っている株式会社未来図の代表取締役 藤戸輝洋氏から「ドローン技術」の講義を受けた。続いて、藤戸氏による、園地でのドローンを使った農薬散布のデモンストレーションを行った。

出席者のほとんどが実際にドローンを使ったデモ散布を見るのが初めてで、散布方法や、農薬の登録状況など熱心に質問をしていた。その後、グループに分かれ、全員でミニドローンの操作体験を行った。

出席者からは、みかん栽培での実用化にはもう少しかかりそうだが、新しい技術を知ることが出来て良かったなどの感想が聞かれた。

農業水産振興課では、今後も有田農業女子プロジェクトや、アグリビギナーの研修会、意見交換会の開催を通じ、担い手の育成を図っていく。



「ドローンを活用した防除」の説明



藤戸氏によるドローンの
デモ散布

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト

【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

～「日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議」を設置～

ウメやサクラ、モモなどバラ科の樹木を食害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」が国内で生息域を拡大しており、農地、森林、公園、河川敷等で繁殖・拡大が懸念されている。日高地方では、現在のところ発生は確認されていないが、発生した場合はウメをはじめとする産業への影響が大きいことから、日高地方の各市町、JA紀州、農作物病害虫防除所、日高振興局（健康福祉部、農林水産振興部）が連携して警戒にあたることを目的に、「日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議」（事務局：農業水産振興課）を6月3日に設置した。

活動内容は、①情報共有体制の構築、②クビアカツヤカミキリの監視の啓発（農業者以外を含む）、③発生確認調査の実施、④発生時の緊急調査で、関係機関が連携を密にして取り組んでいく。



クビアカツヤカミキリ成虫



日高地方クビアカツヤカミキリ連絡会議

2. 重点プロジェクト

【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

～「露茜」の導入推進・生産安定技術の実証～

農業水産振興課では、梅干し生産に特化した農業経営を改善するため、青梅の省力化栽培技術や「露茜」、「翠香」といった特徴ある品種の導入推進を普及指導計画の重点プロジェクトとして取り組んでいる。

「露茜」は樹勢が弱く、ウメの一般的な整枝法である開心自然形では樹冠拡大が遅いことから、樹勢を維持し安定的な生産を続けるために主幹形仕立てによる実証展示ほ(10a)をみなべ町清川地区に設置(平成28年～)している。

6月27日、うめ研究所と連携して収量調査を実施した。「露茜」5年生43樹の合計収量は113.9kg(2.6kg/樹)でH30年(68.4kg(1.6kg/樹))に比べて1.7倍増加した。今後は、樹高や樹容積を調査するとともに、せんだい講習会等を実施して周辺農家へ露茜の導入推進を図る。



「露茜」収量調査



結実状況

3. 印南町農業士らによる小学生の稲作体験を実施

印南町立稲原小学校では、食育活動の一環として、毎年、印南町農業士会や地域の農家らの協力により、稲作体験を行っている。

今年度は3年生から6年生までの53名が参加。5月10日にもち米の「モチミノリ」の播種作業を体験、6月4日に小学校前の水田で田植えを行った。

播種作業では、児童が育苗用のセルトレイ(200穴)に1穴3粒ずつ種籾を播き、発芽を心待ちにしていた。

田植えでは、移植位置のマーカーがついた紐を前に児童が横一列に並び、農家や先生に助けられながら手で苗を植えていた。初めて田んぼに入る3年生は、最初は泥の感覚に戸惑っていたが、最後には「もっと植えたい!」と楽しそうに話していた。

これらの稲は秋の収穫作業体験により収穫し、最後は皆で餅つきを行う。



播種作業



田植え

4. 川辺西小学校で梅の出前授業を実施

6月25日、日高川町立川辺西小学校4年生（33人）を対象に、ウメの生産者と普及指導員が講師となり、梅の出前授業を実施した。

この出前授業は、県と県教育委員会主催で農林水産業への理解と郷土愛や食に対する感謝の気持ちの醸成を目的に、平成24年度から実施している。

最初に、農業水産振興課の橘普及指導員から、ウメの生産量や種類、栽培方法、ウメの機能性、「みなべ・田辺の梅システム」の世界農業遺産認定、梅干しの作り方等を説明した。

次に、管内のウメ生産者で、食育ボランティアでもある小田美津子氏が、「ウメは一年の中で寒い時期にきれいな花を咲かせ、梅雨に実を収穫し、一番暑い夏場にウメを干す。そんな中で育った梅干しは、健康に良い食べ物である」と話した。その後、小田氏が冷凍梅を使った梅ジュースの作り方を実演し、作り方の説明を聞いた児童は、保存ビンに冷凍梅と砂糖を交互に入れ、梅ジュースづくりに挑戦した。

また、事前で作っていた梅シロップを使って牛乳割りと梅ジュースを試飲した。

体験を終えた児童からは、「梅ジュースは、いつ頃飲めるのか」、「梅に塩を入れたらどうなるのか」等の質問や、「梅ジュースづくりは、簡単だった」、「牛乳割りは初めて飲んだけど、美味しかった」などの感想が聞かれ、梅への関心が高まったようだ。



梅のお話をする小田美津子氏



梅ジュースづくり

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【気象条件等に対応した果樹産地の振興】

～ウメ摘心栽培実証園の収量調査結果～

ウメ「南高」の着果安定対策として、平成25年から継続して取り組んでいる摘心栽培実証園（田辺市中三栖）の収量調査を6月3日に、また、ウメ「南高」の早期成園化技術として、平成28年から継続して取り組んでいるムカデ整枝と摘心栽培展示園（田辺市新庄町）の収量調査を6月4日と10日に園主、農業水産振興課の普及指導員、JA紀南営農指導員で行った。



収量調査（新庄町 6/4）

摘心栽培実証園の調査結果は、1樹平均（13年生樹）で摘心樹が慣行樹に比べ1.1倍（図1）、また6カ年の累積収量を比較しても1.45倍（図2）となり、摘心による増収効果が認められた。また、ムカデ整枝と摘心栽培展示園の調査結果は、1樹平均（9年生樹）で36kg、10a当たり2.8tと慣行栽培の2倍以上の収量が得られた（図3）。

摘心栽培講習会は、上芳養地区、秋津川地区でも実施しており、当課では本実証園等で得られたデータを基に摘心処理の効果を講習会や生産者の集う場で情報提供し、取り組み面積を増やしていく。

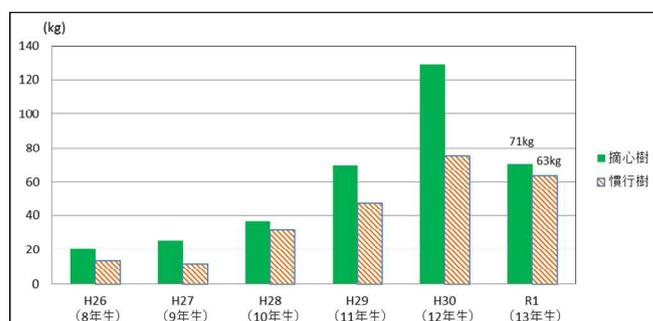


図1 摘心栽培 1樹あたり収量の推移

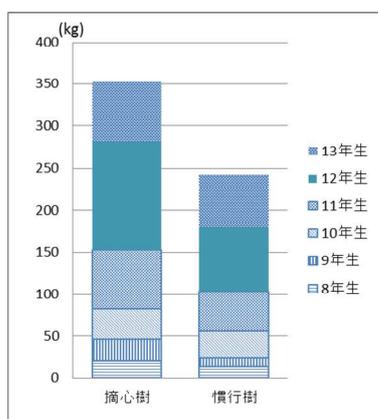


図2 6カ年の累積収量

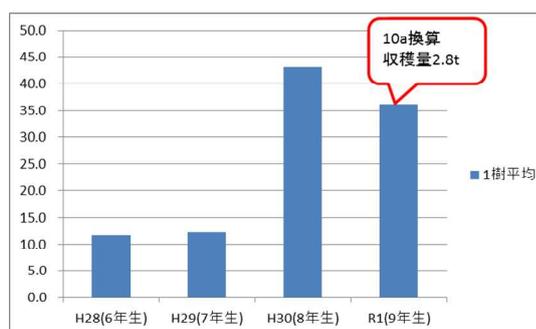


図3 ムカデ整枝+摘心栽培 収量の推移

2. 白浜町農業振興協議会が地元農産物をPR

白浜町の農産物をもっと知ってもらおうと農業者団体、JA紀南、白浜町、農業水産振興課等で構成する白浜町農業振興協議会（山本孝一会長）は、白良浜を訪れた観光客に、6月9日、6月16日、6月23日の3日間、今が旬のトウモロコシのPR活動を行った。

試食用として、朝どりしたゆでたてのトウモロコシ280本を観光客に振る舞った。また、同時にトウモロコシを数量限定(400本)で販売した他、地元農産物直売所にも足を運んでもらえるよう、リーフレットを配布して直売所のPRも行った。

試食した観光客からは「おいしい」、「めっちゃめっちゃ甘い」、「白浜でトウモロコシって栽培されてたんや。知らなかった」といった声が聞かれ、小さな子供達や若い男女、お年寄り幅広い年代の方々が試食用のトウモロコシを手にとり喜んで食べてくれた。また、販売用のトウモロコシも1時間程で完売した。

当協議会では今回のような活動は初めてで、今後もエダマメや花き等、地元農産物を積極的にPRしていく予定である。当課では、この活動を支援し、地域農産物の知名度向上と販売促進につなげていきたい。



トウモロコシのPR活動



農産物直売所もあわせてPR



販売用トウモロコシ



トウモロコシPR看板

3. 四村川活性化委員会が野菜栽培講習会を開催

農家や田辺市で組織する四村川活性化委員会（久田里敏行会長）は、6月19日、田辺市本宮町のおとなしの郷において、野菜栽培講習会を開催し、会員15名、田辺市職員4名が参加した。四村川活性化委員会は5年前に総務省の地方創生事業を活用して、直売所と水わさび栽培施設、アマゴ養殖施設を整備した。今回は直売所へ出荷する野菜栽培農家を対象に初めて講習会を開催した。講師は農業水産振興課の谷普及指導員が務めた。

久田里会長から直売所への出荷状況や出荷に関しての注意事項を説明した後、谷普及指導員から「夏野菜栽培について」と題し、主にトマトやミニトマトの栽培管理について説明した。また「ニラと間違えやすい有毒植物」について、農林水産省の資料をもとに説明し、間違えて出荷しないよう呼びかけた。

会員からは、トマトの仕立て方の他、イチゴやジャガイモ、サトイモ等の病虫害防除について数多くの質問が出され、また会員同士で活発な情報交換が行われた。

当委員会では、今後秋冬野菜の栽培についても講習会を計画しており、当課では品質の高い農産物栽培が行えるよう栽培技術の向上を支援していく。



栽培講習会



水わさび栽培施設

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【新規就農者育成を核としたイチゴの産地育成】 ～那智勝浦町苺生産組合が研修会(イチゴセミナー)を開催～

6月20日、那智勝浦町苺生産組合(栗野稔近会長)は、那智勝浦町宇久井の休暇村南紀勝浦において第49回総会及び研修会(第1回イチゴセミナー)を開催した。

当日は組合員14名の他、来賓、各関係者が出席した。冒頭、栗野会長から「近年、イチゴの新規就農者が増え、栽培技術を取得できる仕組みづくりも進んでいる。関係機関と連携しサポート体制を築くことで技術の向上を図り、「まりひめ」の生産量を増やしていきたい」と挨拶があった。総会に先立ち行われた表彰式では、販売額などに応じ、優秀な成績を残した会員に対し賞状が授与された。また総会では事業報告、事業計画(案)、役員改選(案)ともに原案のとおり承認され、新会長に栗野稔近氏が再任された。

総会終了後、研修会(第1回イチゴセミナー)が開催され、農業水産振興課浅井普及指導員及び堺普及指導員から昨年度の現地試験「ハダニの天敵導入調査について・まりひめの摘果効果について」の結果を報告した。続いて県農業共済組合南部支所から「農業経営収入保険について」、農業資材メーカー(山田農園)から「炭酸ガス発生装置について」と題して講話があった。

当課では、今後も那智勝浦町苺生産組合、JAみくまのと連携して栽培研修会(イチゴセミナー)や現地検討会を開催し、那智勝浦町苺生産組合の活動を支援していく。



会長挨拶



研修会

2. 三津ノ地域活性化協議会が福祉施設利用者によるタマネギ収穫作業を実施

6月4日、三津ノ地域活性化協議会(下阪殖保会長)及びJAみくまの、農業水産振興課は、新宮市熊野川町のタマネギ畑12aの一部で福祉施設の利用者14名によるタマネギの収穫体験を実施した。

今回は、農福連携の試行として実施したもので、串本町の「エコ工房四季」、那智勝浦町

宇久井の「南紀ひまわり作業所」、新宮市の和歌山県福祉事業団「生活介護事業所えん」の3施設が参加した。

今回の作業体験は、①タマネギを引き抜き、②葉と根を切り、③コンテナに集める一連の作業を行うもので、作業内容や手順、注意事項等の説明後、支援員のサポートも受けながら約1時間にわたり作業を行った。短時間の作業で慣れてきた頃には終了となった感もあるが、今回の作業内容は十分に対応可能であることが確認できた。

また、施設の支援員からも「大きな畑での収穫体験は今までなかった。利用者さんもこの日を心待ちにしていた。うれしいし、ありがたい。収穫したタマネギを持ち帰れるので、給食でおいしいタマネギ料理を提供したい」等の声があった。

今後は、同地域でタマネギの植え付けも予定しており、農福連携できる作業を見つけていく。



タマネギ実証展示ほでの収穫



収穫されたタマネギ

3. 那智勝浦町果樹園芸会が定例総会及び講習会を開催

6月21日、那智勝浦町果樹園芸会（石田守会長）16名は狗子ノ川青年クラブにおいて、定例総会及びポンカンの講習会を開催した。

定例総会では事業報告、事業計画(案)ともに原案のとおり承認された。

総会終了後の講習会では、農業水産振興課浅井普及指導員から、本年産ポンカン栽培（防除）暦の説明や東牟婁管内の柑橘類着花状況調査の報告、経営発展セミナー（カンキツ経営における規模拡大と事業継承）の案内があった。また、JAみくまのからは獣害防護柵の補助や融資等の説明があった。

会員からは、ゴマダラカミキリ等害虫防除や摘果剤、鳥獣害対策に関する質問があった。特に、当会では鳥獣害対策が大きな課題となっていることから、秋に果樹試験場の鳥獣害対策の取り組みについての視察を実施することを申し合わせた。

当課では、高齢者が管理しやすい低樹高化や鳥獣害対策の支援等を行い、安定生産を推進していく。



ポンカン栽培暦等説明

4. 三津ノ地域活性化協議会がサツマイモ定植体験を開催

6月23日、三津ノ地域活性化協議会(下阪殖保会長)及びJAみくまの、農業水産振興課は、新宮市熊野川町の休耕田を活用したサツマイモ定植体験を開催した。市内外の家族連れなど9組(22名)の参加があった。

会長の挨拶の後、当課浅井普及指導員がサツマイモのイモのつき方や定植について説明し、協議会メンバーらがサツマイモ「紅はるか」の苗の植え付けを指導した。

参加者は、1組当たり30本の苗を長さ約4.5mの畝2畝に植え付け、その後各々手作りの看板を作成して立てた。参加者からは「農作業がこれほど楽しいとは思ってもみなかった。秋の収穫が楽しみ。」といった感想があった。

作業後は同じ熊野川町内で収穫された朝採りトウモロコシをゆでて食べ、新鮮野菜の味を楽しんだ。

11月には今回植えたサツマイモの収穫体験を行う等、体験農園を通じて地域住民との交流を図っていくこととしており、当課としてもこれらの取り組みを支援していく。



会長挨拶



サツマイモ苗の定植

5. 新宮周辺地場産青果物対策協議会が総会及び現地研修会を開催

6月24日、新宮周辺地場産青果物対策協議会(小田三郎会長)は、総会及び現地研修会を開催した。くろしお熊野やさいグループ代表者(瀧本ふさゑ氏)をはじめ、市場関係者、JAみくまの、市町村、農業水産振興課併せて18名が出席がした。

総会では、冒頭に小田会長から「地場産青果物の取扱量は、年々減少している。協議会の関係機関が連携して、安定供給を目指してゆきたい。」と挨拶があった。引き続き、平成30年度事業報告、収支決算、令和元年度事業計画について審議され、すべて承認された。

その後、ナス(新宮市佐野)、ピーマン(那智勝浦町高津気)、トウモロコシ(那智勝浦町井鹿)の順に各栽培ほ場へ移動し、現地研修会が行われた。各ほ場では、当課普及指導員から地域の栽培の歴史や概要につ



総会

いて説明があった後、収穫時期や病害虫の発生状況等栽培管理について質疑応答が行われた。

当課では、今後も関係機関と連携して新宮周辺地場産青果物対策協議会の活動を支援していく。



現地研修会

Ⅷ 農林大学校 農学部

1. 就農・就職へ向けて ～2年生インターンシップ（前期）を実施～

農林大学校農学部では、6月10日から24日までの15日間にわたり、2年生（21名）のインターンシップ研修を実施した。この研修は、学生が自らの希望進路に合った農家や企業等での就業体験を通じて、職業感覚や社会人としての意識を醸成することを目的としている。

研修では、学校とは違う方法での作業に戸惑うこともあったが、それぞれの指導者の下で新たな経験を得ることができた。また、初めて接する幅広い年齢層の人々との間で円滑な人間関係を築くためには、質問や雑談などを通じたコミュニケーションの積み重ねが重要であることなどを学んだ。

同研修は本年度、2年生30日間（前期・後期各15日間）、1年生15日間の実施を予定している。2年生の後期は10月、1年生は11月の予定。



ウメ収穫は最盛期（みなべ町・農家）



（左：有田川町・農家、右：大阪府・公共施設）

2. アグリビジネス学科プロジェクト学習 観光農園現地調査

農林大学校農学部アグリビジネス学科では、2年生（5人）のプロジェクト学習として観光農園の経営をテーマに取り組んでいる。

6月25日に事例調査として「豊田ブルーベリー園」（紀の川市豊田）を訪れ、ブルーベリー一摘み取りの観光農園の経営について、経営者の杉本守氏と山下正芳氏から聞き取りを行っ

た。同園は2007年にブルーベリーの栽培を開始し、2009年に開園。今年は6月1日から摘み取りの受入れを行っている。

学生らは事前に質問事項を整理し、経営面積や栽培品種、栽植本数、なぜブルーベリーの観光農園をしようと思ったのかなどを尋ねた。杉本氏らは学生の質問に1つずつ答え、経営する上での苦労や工夫していることなども丁寧に説明してくれた。

この日聞き取った結果をもとに、学生らは観光農園の経営シミュレーションと、自分たちで実施する観光農園との比較を行う。

本校の観光農園は、8月6日と9日の2日間開園の予定。



経営者から話を聞く



ほ場に出て質問

IX 農林大学校 就農支援センター

1. 社会人課程の実習にて梅の加工を実施

6月27日、社会人課程の実習で白干し用の梅の塩漬けを行った。

研修生は職員の指導の下、ケシキスイ類対策のための水浸漬や、塩をまぶしながら行う梅の漬け込みをした。出来上がった白干し梅の利用法について質問をする研修生に対し、白干し梅として一次加工した後、保存が利くことや調味梅やシソ漬梅等に二次加工することを説明した。

今後、樽に漬けたウメにカビが発生しないように管理しながら1ヶ月後に天日干しを行い、白干し梅が出来上がる予定である。また、この白干し梅を用いて味付け梅干しの加工にチャレンジする。



梅の水浸漬



梅の漬け込み

2. UIターン就農相談フェアを開催

6月30日、和歌山県JAビル(和歌山市)においてUIターン就農相談フェアを開催した。

相談会には県内への就農を考えている24組32名(県内11組、県外8組、不明5組)が来場し、それぞれのブースでは就農に向けてのアドバイスや支援策・研修の説明を幅広く行った。

今回の相談フェアは、相談者が足を運びやすいように会場を和歌山駅前に変更した。また、相談者がより就農時の経営と暮らしの見える化を図ることができるよう、市町村や農協にも出展を募り、新たに紀美野町・有田市・有田川町・由良町・田辺市やJA紀の里・JA紀北かわかみ、紀ノ川農協がブースを出展し、それぞれの支援や研修制度などについて情報提供を行った。

また、相談と並行して、新規就農セミナーを開催した。このセミナーでは、就農支援センターや農林大学校で研修を修了し就農した2名の方が、就農した際の苦労話やアドバイス、現在の状況などについて発表し、質疑応答が行われた。参加者からは「就農するまでに必要な準備や心構えについて知ることができてよかった。」との声が多数聞かれた。

今年度は、11月17日と2月23日にも同会場にてUIターン就農相談フェアを行う予定で

あり、今後、さらに出展ブースを増やし、相談フェアの充実度を増していきたい。



相談ブース



新規就農セミナー



相談会場全体 1



相談会場全体 2

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489